

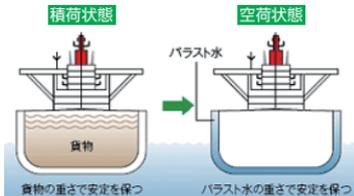


## 《将来に向けた取組方針》

長期環境指針「環境ビジョン2050-青い海を明日へつなぐ-」の2050年目標の一つに「生態系保護の業界トップ」を掲げる。海運事業者として船舶の油濁事故が最大の生態系破壊に繋がると考え、安全運航をサービス品質と環境保護の観点からも経営上の重要課題としている。バラスト水（下図参照）の適正管理や所有地での里山保全活動に取組むと共に、環境配慮型船体塗料の採用、排気ガスのSOxNOx削減等汚染対策も実施。低炭素化は生態系維持にも貢献するため、2050年までにGHG排出総量半減を目標とする。今後も持続可能な社会と事業の実現を目指し、全ての利害関係者の要請に応え「環境統合型経営」を推進する方針。

### 〈具体的取組み事例〉

- ▷国際条約に則ったバラスト水処理装置を搭載。規則に先んじたバラスト水管理を励行し、生態系への影響の最小化に取組んでいます。



※微生物等が、バラスト水と共に荷揚地から積地に運ばれることで、バラスト水が排出される積地の生態系を壊す可能性がある。当社では規則開始以前にも外洋での張替え等最大限の努力を継続。  
\*バラスト水:貨物を積んでいない時に船体が適切な深さを維持できるよう「重し」として船に積む海水（左図）。

- ▷風力を利用する自動カイト（凧）システム‘Seawing’の本船搭載決定



※“Seawing”は自然の風力を利用し、推進力の補助とする装置。AIRBUS社より分離したAIRSEAS社が開発し、約20%の省エネ効果が期待できる。当社の船舶・運航管理システム‘K-IMS’との共用により更なる性能向上に取組み中。

- ▷当社保有林での里山保全活動

竹藪や下草を刈り、暗い森に光がさすことで、森が再生。（千葉大学生ISO委員会との協働事業）



### 〈今後の課題等〉

- ▷油濁事故は、生態系へ重大な影響を及ぼすため、油濁事故ゼロは海運事業者として継続した重要課題。自動運航等の最新技術を投入し、さらなる安全運航強化を目指す。
- ▷地球温暖化もまた、生態系に重大な影響を生じするため、カイト（左図）やLNG燃料焚き船の普及に努め、船舶からのGHG排出総量半減を進める。究極には未実現の技術によりゼロ・エミッション船を導入し、今世紀後半の脱炭素達成を目指す。
- ▷海洋プラスチックゴミ問題については、貨物船からの排出は既に規則で禁止され、厳格に遵守しているが、海を事業の場とする者にとって看過できない問題であり、調査等に協力したい。

### 〈社会に向けたメッセージ〉

生物多様性への取組をひとことで表現すると、「豊かで美しい海を次の世代へと伝えていく海運事業者としての責務」。